

巻頭言「頌 春」～さまざまな課題を乗り越えて～

令和5年・癸（みずのと）卯年の正月を迎えました。本年が皆様にとりまして平穏な一年となりますことを祈念申し上げます。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が全世界に拡大してから間もなく3年が経過します。令和2年2月16日、横浜港に停泊中の豪華客船ダイヤモンド・プリンセス号からコロナ患者さんを初めて受け入れたのが、つい先日のように思い出されます。

刻は瞬く間に過ぎ、令和4年12月中旬までに1,788人のコロナ患者さんが当院へ入院されました。このうち、入院時すでに重症であった人が102人（5.7%）で、中等症1,034人（57.8%）、軽症・疑似症652人（36.5%）でした。入院時に“重症ではない”とされていても、入院後の治療経過中に重症化した人が41人（2.3%）存在し、最終的に「重症」と診断されたのは、この41人と入院時すでに重症であった102人を加えた143人（8.0%）でした。このうち47人（32.9%）に治療効果が得られず、即ち「重症」となった3人に1人が残念ながら泉下の客となりました。第8波で新規感染者が増加しましたが、ワクチン追加接種による入院・重症化の予防効果に期待したいと思います。



＜病院長＞

＜門倉 光隆 特任教授＞

昨年、南半球が冬に向かう4月後半からオーストラリアでインフルエンザが流行しました。日本では昨年秋から水際対策緩和によってウイルスが大量に持ち込まれる可能性があるとともに、過去2年間インフルエンザが流行せず社会全体の集団免疫が低下していることから、一旦感染が広まると大きな流行になり得ます。当院は発熱患者さんに対し、新型コロナとインフル両ウイルスに対する同時抗原検査キットによる鑑別診断を行い、診療現場での混乱を回避しています。

新型コロナ禍初期にはCOVID-19がどのような病気であるか不明確で、その感染力の強さに恐れをなしていました。その後ウイルスが変異を繰り返すたびに新規感染者がさらに増加してさまざまな課題が噴出するたび、全職員が団結して知恵を絞り、多くの波を乗り越えて今日を迎えています。COVID-19対応だけでなく、今後も職員の力を結集して病院全体がひとつのチームとなり、互いに感謝の気持ちを抱きながら邁進したいと思います。そのためにも“ハウレンソウ（報告・連絡・相談）”を徹底し、“コマツナ（困ったら・使える人に・投げる）”や“キクナ（気にせず休む・苦しいときは言う・なるべく無理しない）”など柔軟な対応で解決策を求め、円滑な病院運営に尽力したいと考えています。

皆さんが体調の保持に注力しながらお過ごしいただくとともに、当病院の運営に対してより一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

- P1. 【巻頭言】「頌 春」～さまざまな課題を乗り越えて～
- P2～3. 【医学講座コーナー】無痛分娩
- P4. 【お知らせ】お正月の病院食について
【お知らせ】1月度がんサロン開催のお知らせ
- P5. 患者さんからのご意見・ご要望
- P6. 【お知らせ】秋期市民公開講座を開催しました
【編集後記】



【医学講座コーナー】無痛分娩

(産婦人科 教授 市塚清健)

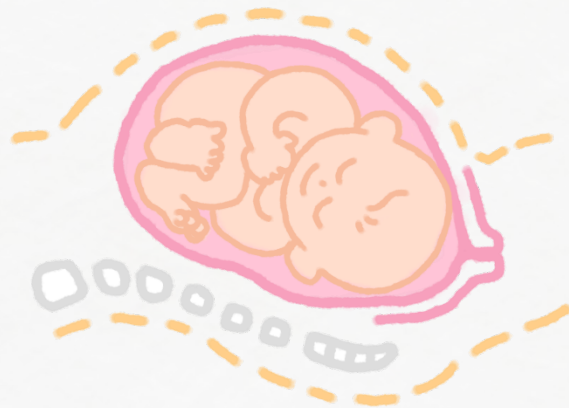
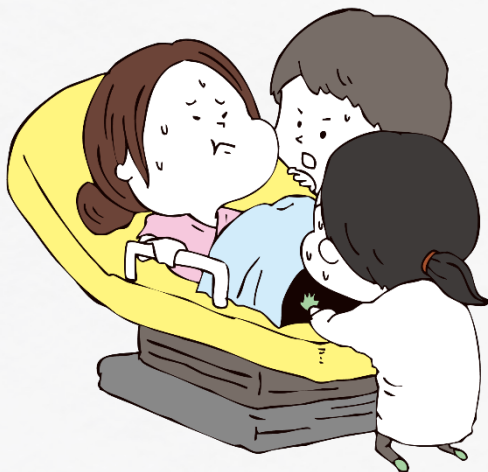
無痛分娩を開始します

昭和大学横浜市北部病院 産婦人科では、麻酔科とともにこの度無痛分娩を開始することになりました。今回は、無痛分娩を開始するに至った経緯と無痛分娩について述べさせていただきます。

無痛分娩とは

無痛分娩とは、麻酔により陣痛による痛みを取り除き、または和らげながら出産する方法の総称です。欧米では「痛みは取るもの、無いに越したことはない」との合理的な考え方や、分娩入院期間が1-2日と短いことなどを理由に、古くから無痛分娩が行われており、その頻度は70-80%と無痛分娩が主流であります。

一方、我が国では「忍耐を美学とする国民性」「お腹を痛めて産んでこそ」などの考え方があり、欧米との考え方の違いや、そもそも麻酔手技を身に付けた産婦人科医が少ない、無痛分娩に対応する麻酔科医不足などの理由から、無痛分娩はまだまだ普及しているとは言えず、最近の統計では微増傾向はあるものの帝王切開を除く分娩全体のおよそ8%程度にとどまっています。(無痛分娩対応産婦人科施設の割合はおよそ30%)



導入の経緯

しかしながら、今後は考え方の欧米化や、さらには少子高齢化に伴い無痛分娩の需要が増加することが予想されています。実際、当院におきましても無痛分娩を希望される妊婦さんが増えておりますが、現状では対応しておらず要望に応えられておりませんでした。そのような背景から地域の妊婦の要望に応えるべく当院でも本年10月から無痛分娩を取り扱う運びとなりました。昭和大学関連では昭和大学病院、昭和大学江東豊洲病院に続いて3施設目になります。

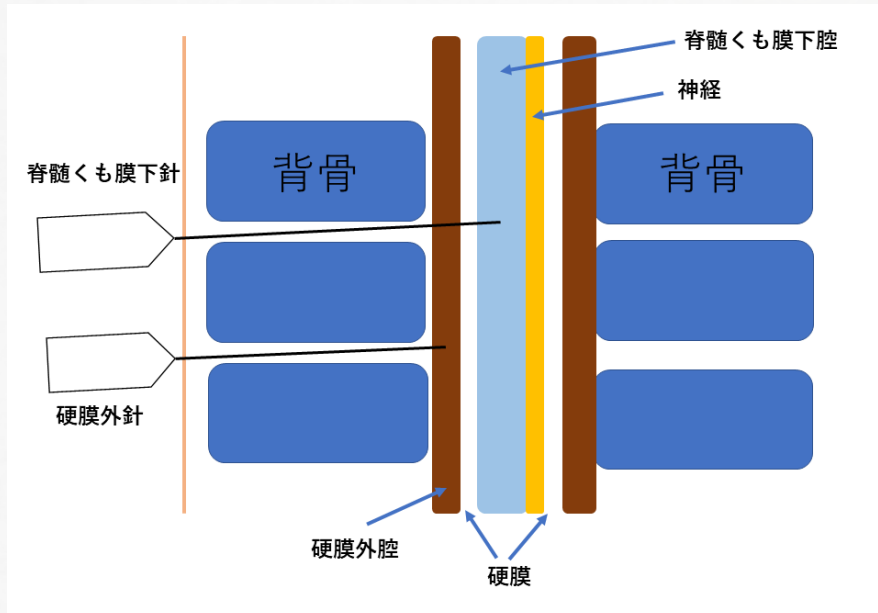
【医学講座コーナー】無痛分娩

(産婦人科 教授 市塚清健)

無痛分娩の種類

無痛分娩には、陣痛が始まり、分娩が始まったことにより入院してから麻酔を行ういわゆる”オンデマンド”型と、分娩が始まる前に入院し、自然に陣痛が来る前に陣痛を促しながら、麻酔を行う”計画無痛分娩型”がありますが、当院では”計画無痛分娩型”を導入する予定です。

麻酔は麻酔科医師が担当し、分娩終了まで麻酔科医師が痛みのコントロールを行います。麻酔の方法は、脊椎の中の硬膜外腔というスペースに細い管を挿入し、そこから局所麻酔薬を注入する方法（硬膜外麻酔）やこれに加え、硬膜外腔より深い位置にある、くも膜下腔という、脊髄液が入っている場所へ、麻酔を注入する方法の併用などがあります。



メリットとデメリット

無痛分娩のメリットは何と言っても「痛くないこと」ですが、その他にも会陰を切開した際の傷や産道の傷を縫っている時の痛みが無い、緊急帝王切開を行う必要のある場合に新たに麻酔をかける必要がない、産後の疲れが少ないなどが挙げられます。

一方、デメリットとしては麻酔そのものの合併症、陣痛を感じないため「いきむ」タイミングがわからない、分娩が長引き吸引、鉗子分娩などの器械を用いた分娩の頻度が増加する、産道に血のかたまりなどができた場合も痛みの訴えがないため発見が遅れるなど様々なものが挙げられます。このような合併症の発生を防ぐため無痛分娩には安全管理が一層求められ、産婦人科医、麻酔科医、小児科医、助産師、看護スタッフなどのチームが一丸となって安全な無痛分娩を提供したいと考えております。

尚、無痛分娩を行う際には実施可能な条件や人数制限もございますので、ご希望される場合は外来担当医までご相談下さい。基本的には妊娠後期から受付いたします。

【お知らせ】お正月の病院食について

年が明けて春がひときわ待ち遠しく感じられます。

お正月といえばおせち料理。縁起物であるごちそうを重箱に詰めることで幸せや福を重ねるという願いが込められています。おせち料理をいただく際に使用する「祝い箸」は両方の先端が細くなっていますが、片方は歳神様、もう片方は人が使用する「神人共食」という意味があります。

・お雑煮…神様にお供えした餅や野菜を一つの鍋に煮たものがお雑煮の起源。たくさんの食べ物を一緒に煮たので雑煮という。

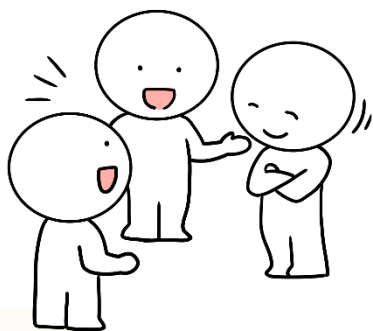
・紅白かまぼこ…かまぼこの形が、日の出に似ていることから紅白ならべてお祝いの彩りに。

・酢ぼす…れんこんの穴をのぞき込むと、その先が見えることから「先の見通しが明るくなるように」という意味が込められている。

当院も1月1日、2日は、おせち料理の一部ではございますが提供させていただく予定です。お食事を通じて皆様方のご多幸をお祈り申し上げます※写真は昨年度のものです。



【お知らせ】1月度 がん患者サロン「きぼう」



がん患者サロン「きぼう」の1月19日（木）の開催が決定いたしました。

今月のがん患者サロンでは、「治療中の食事」「治療中のお口のケア」についてのミニレクチャーを行います。お食事内容でお困りのこと、お口のケアでご相談したいことがあれば、ぜひご参加ください。

1月度 がん患者サロン「きぼう」

開催日時：1月19日（木）14：00～15：00（予定）

開催方法：オンライン開催

ミニレクチャー：治療中の食事・治療中のお口のケア

（参加には事前申し込みが必要です。）

申し込み等詳細は右の QR コードからご覧ください。）

お問い合わせ：中央棟 1 階 100 番

総合サポートセンター 045-949-7000（代）



患者さんからのご意見・ご要望

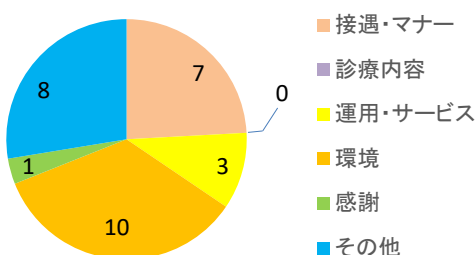
日々患者さんよりいただきましたご意見・ご要望に関しましては、病院長及び関連する部署の責任者に報告し、改善に努めております。

今までのご意見の中で多くいただいたものや最近のご意見・ご要望を中心に、改善策を掲載させていただきました。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

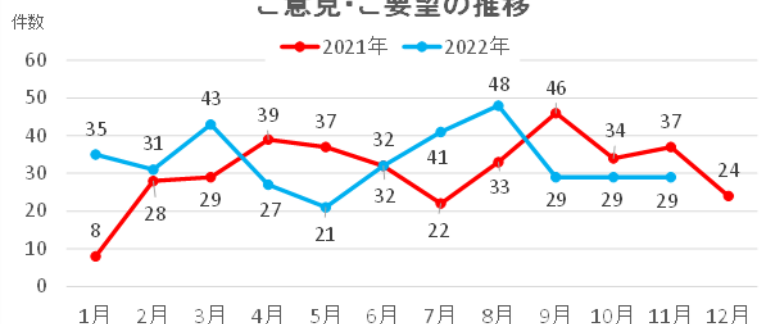
今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	回答・改善等
外来診療の待ち時間が毎回2時間以上で、待つのがつらいです。外で待つにしても、自分があと何番目なのか分からないので、スマホ等で何番目か分かるようにデジタル化して欲しいです。受付の方も事務的対応でとても冷たく感じ、話しかけるのが つらいです。	おつらい思いをさせてしまい大変申し訳ありません。 表示盤には4番目までの受付番号を表示しておりますが、5番目以降の番号は表示できない仕様となっております。 また、何番目の診察になるかは、来院時間だけでなく予約時間にも左右されて随時変更されますので、5番目以降の方の順番は変わることがあるため、現状ではお伝えするのは困難です。今後の課題として検討してまいります。 また、受付の対応についても大変申し訳ありませんでした。常に患者さんに寄り添った対応ができるよう改めて指導してまいります。 貴重なご意見ありがとうございました。 (回答部署：医事外来課・医療情報室)
駐輪場、自転車置き場を拡大して下さい。停めるスペースが無いに等しい。倒され破損した事があり、毎回心配している。	ご意見ありがとうございます。 現時点では、敷地面積の都合から駐輪場の拡張予定はございません。また、当院までの移動中、安全の観点からご来院は公共交通機関を利用させていただくことをお願いしております。ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。 (回答部署：管理課)
パジャマのズボン（3L）のゴムがゆるくなっています。	院内着について、不快な思いをお掛けしてしまい申し訳ございません。 ゴムがゆるい場合は交換が可能ですので、近くのスタッフにお声を掛けていただけますと幸いです。 また、検品につきましても強化をしてまいります。 この度は貴重なご意見ありがとうございました。 (回答部署：管理課)

2022年11月
ご意見・ご要望の総計29件



2021年・2022年
ご意見・ご要望の推移



【お知らせ】秋期市民公開講座を開催しました



左から、副院長 川崎恵吉 教授、呼吸器センター 北見明彦 教授、
耳鼻咽喉科 油井健史 講師、副院長 緒方浩顕 教授

〈映像講演〉

外科系・甲状腺センター長
福成信博 特任教授

11月26日（土）に市民公開講座を開催いたしました。今回の公開講座もオンライン開催となり、当日は70名を超える皆様にご参加いただき、好評のうちに終了いたしました。ご参加いただいた皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。

なお、講演の録画は今後当院のホームページにて公開予定でございます。

第一部「ロボット支援手術ってなに？」

外科系・甲状腺センター長 福成信博 特任教授、
呼吸器センター長 北見明彦 教授

第二部「私はこれでタバコをやめました。～やめたい人の禁煙外来～」

耳鼻咽喉科 油井健史 講師

編集後記

新年あけましておめでとうございます。新年といえば、初詣、初日の出、お年玉、おせちなどが思い浮かびますが、皆さんは何をして過ごしましたか。

去年は、お取り寄せでプチ贅沢しようとおせちを頼み、普段食べないものを食べておうち時間を楽しみました。今年はどこのおせちを取り寄せようかなと考えていたところ、とある先輩の「料理は科学よ」という言葉を思い出しました。彼女はハンバーグでも、クッキーでも、仕込みから出来上がりまで科学を駆使して15分で作るそうです。そこで、「料理は科学」をネット検索してみると、調味料を科学する本、熱を極めて料理する本など様々な書籍が出ており、おせちではなく書籍を取り寄せてロジカル料理に挑戦することにしました。

2023年はうさぎ年。その飛び姿から、新しいことを挑戦するのに最適な年と言われている。皆さんも何か新しいことを初めてみてはいかがでしょうか。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

（7B病棟 坂本 紀世乃）

北部病院だより 第175号
2023年1月1日発行

発行責任者 門倉 光隆（昭和大学横浜市北部病院長）

編集責任者 緒方 浩顕（広報委員会 委員長）

発行 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話 045-949-7000(代表)

URL: <https://www.showa-u.ac.jp/SUHY/>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。

